

04. 塘路駅通所の終焉と標茶町文化財へ

IV

昭和2年釧路標茶間で釧網線が開通すると、安定した鉄道輸送が可能となり、旅行者は塘路で途中休憩する必要がなくなりました。塘路駅通所は存在意義を失ない、昭和3年6月に廃止となります。

そして駅通所建物は元々越善家の建物を使っていた為、廃止後は越善家の住宅として使われます。その後越善家から標茶町へ建物が寄贈され、昭和49年3月15日に標茶町指定有形文化財となりました。その際、現在の北海道集治監釧路分監横に移築され、現在へと至ります。

塘路駅通所取扱人の越善啓作氏は、塘路湖での漁業も生業としていたため、塘路に住むアイヌの人々とも密接な関係にありました。塘路湖周辺のアイヌ語地名の記録なども、当時は日常的に使われていた名称であり、この土地に住むためには必要な事でした。越善家での各種文書は駅通のみならず、多様な種類が残されており、学術的にも非常に貴重な資料となっています。

本来、駅通所の歴史とアイヌ文化は別なものですが、越善家と漁業を通してこの二つは結び付き、様々な資料として残されています。

大きなアイヌコタン(アイヌ語で集落の意味)により栄えた塘路特有の歴史の一つと言えるでしょう。



越善家より寄贈された古文書や地図

一括して『越善文書』と呼ばれている。明治～大正にかけての貴重な記録が残されている。

制作・発行 標茶町博物館ニタイ・ト

塘路駅通所については標茶町博物館までご連絡ください。

標茶町博物館 

〒088-2261 北海道川上郡標茶町字塘路原野北8線58番地9
TEL.015-487-2332 FAX.015-487-2364
Email : nitai-to@sip.or.jp
<http://www.sip.or.jp/~shibecha-museum/>



ホームページは
コチラ!

しべちやちよう してい ゆうけい ぶんかざい
標茶町指定有形文化財

きゆう どう ろ えき てい しょ
旧塘路駅通所



01. 旧塘路駅通所へようこそ!

塘路駅通所は明治23年(1890年)6月4日に開設され、この建物は明治28年(1895年)に越善啓作氏が駅通取扱人になった時より、駅通所として使われました。元々は越善家が塘路湖で漁を行うための番屋として、明治18年(1885年)頃建築されたと伝えられ、当時は越善啓作氏が大工の棟梁のような立場で組み上げたと言われています。

特に釧路川の流木を使ったと伝えられる、「の」の字に似たヤチダモの飾り柱は、この建物の象徴となっています。

02. 駅通所はどんな施設？

駅通所とは文字だけを見ると鉄道の“駅”のように感じますが、旅行者や移住者のために設置された“旅館”です。道路整備が遅れていた明治期より、北海道独自の制度として街道沿いに設置されました。

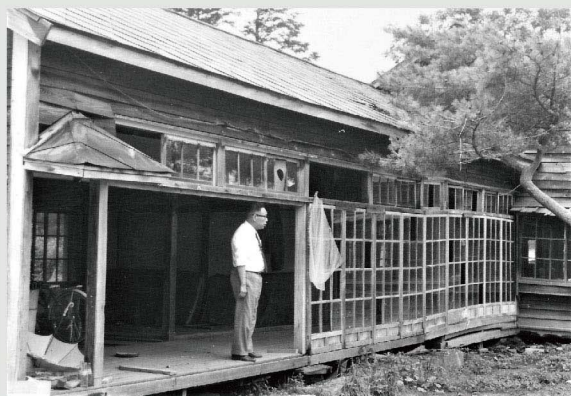
旅人が一日に歩ける距離を約3～5里(約12～20km)とし、その間隔で置かれました。駅通所は行政から手当金を貰いながら経営を行う、半官半民の施設で、駅通の経営者は「取扱人」と呼ばれました。

駅通所では宿以外にも、次の駅通所まで利用者の荷物を運ぶために人や馬の貸し出しを行う「人馬継立」という業務も行っており、荷物の多い入植者や商人たちの大きな助けとなりました。また多くの駅通所では郵便業務を行ったほか、行政文書の作成代行や土地区画などにも関与するなど、駅通所取扱人は地域では指導者的な立場である場合が多かったようです。

駅通所は明治期より数を増やし、最盛期には200か所を超える数の駅通所が設置されました。駅通所は道路網の整備と共に徐々に廃止され、昭和22年に全ての駅通所が廃止となりました。

標茶は面積が広く交通網の整備が遅れたため、明治期から昭和期にかけて多くの駅通所が設置されました。標茶最初の駅通所は「標茶駅通所」で明治21年に標茶市街に設置。最後に廃止された駅通所は「阿歴内駅通所」で昭和21年まで存続しました。

標茶町は駅通所が廃止される最末期まで設置され活躍しました。



廃屋となった沼幌駅通所(昭和30～40年代に撮影)

標茶では太平洋戦争前後まで使われていた駅通所が多く、その建物の多くは昭和30年代まで残されていた。

II



塘路駅通所と塘路橋(明治28年撮影)

03. 塘路駅通所の歩み

塘路駅通所は明治23年6月に開設しました。初代の取扱人は中村サトという人です。明治28年頃より越善啓作氏が取扱人として業務を引き継ぎました。

越善家時代の塘路駅通所は塘路湖からアレキナイ川に繋がる河口付近に置かれました。当時の標茶釧路間道路は、ぬかるむ場所の多い不便な道路であった為、人や物資の輸送は川舟を多く使いました。塘路駅通所の立地は、元々漁業番屋であった事に加え、そうした交通事情にも関係しているのでしょうか。なお駅通所の建物は越善家の番屋を転用して使い、越善家が請負で駅通業務を行いました。

塘路駅通所では“人馬継立”も行っており、明治30年頃には6～8頭ほどの官馬がいました。また塘路郵便継替所として郵便物も扱いました。越善家の文書を見ると、漁業関係等の行政文書の代筆等も行っていったようです。



塘路駅通所の裏口(昭和29年6月撮影)

駅通所の裏は塘路湖に面しており、元々漁業番屋だった事を思わせる。

III

2. 駅通所はどんな施設？

3. 塘路駅通所の歩み